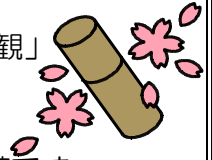




「最善観」 ～式辞よい～

昨日、3月9日、3年生56名が立派に巣立っていきました。式辞の中で「最善観」という言葉を贈りました。在校生の皆さんにも式辞の一部を紹介します。



「最善観」は明治時代の哲学者であり教育学者であった森信三さんという方の言葉です。

最善観とは一言で言うと「全てのできごとは必然かつ最善である」という考え方です。「現在の自分にとって、一見、いかにもためにならない、悪い事柄が起こっても、それは、自分にとって必要なものとしてあたえられたこと。全ての現象は自分にとって最善のことが起きていると信じていることである。」ということです。

もし途方に暮れるような状況に陥ってしまった時でもそのことから目をそらさず、目の前に立ちはだかる試練を自分の人生において必要なこととして受け入れる。不幸だと思っていたことが、実はそうでもなかったと思える日が必ず訪れるはずである、という考え方です。

皆さんのこれからの人生は楽しく、充実したことばかりではなく、思い描いた通りにならないことも多々あるでしょう。そんなとき、このような考え方ができれば、試練に立ち向かう勇気がわいてくるのではないのでしょうか。



とはいえ、口で言うのは簡単ですが、本当につらい状態になったときにはなかなか難しいことです。そんなときに2つ大切にしてほしいことがあります。

ひとつは、物事をいろいろな方向から見ること。そのために、自分自身が勉強やいろいろな経験をするのはもちろん、皆さんの周りにはすでに多くの学習や経験を重ねた信頼できる大人がいるはずで、そんな人の力も借りながら、物事を多面的に見て考え、最後は自分で決断して下さい。

もう一つは、後ろを振り返らないこと。過去を反省しないということではありません。くよくよと過去を引きずらないということです。

どうか、人生が順調なときは人の苦しみに思いを寄せ、思いやりの心を持ち、不調なときには全ての現象は自分にとって最善のことが起きていると前向きに受け止め、これからの人生を元気に歩んでほしいと願っています。

